

9	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13854007	性ステロイド中枢作用の分子機構に関する研究	西原 真杉 (東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>本研究の目的は、性ステロイド中枢作用による性分化誘導と GnRH サージ発生の分子機構などを解明することであるが、性ステロイドにより転写が促進する遺伝子群を同定するとともに、グラニューリン遺伝子が性分化誘導に重要であること、性ステロイドの神経保護作用のメカニズム、グルココルチコイドの脳機能維持作用などの新しい知見を得ており、全体的にみると概ね期待どおり研究が進展したと評価できる。</p> <p>一方、GnRH サージ発生に関する研究は部分的には進展したが、サージ発生の詳細な分子機構やグラニューリン転写調節機構などは十分に解明できたとはいえず、今後の研究の進展を期待したい。</p> <p>本研究成果は、動物行動の雌雄差発現機構や性周期回帰機構などに関連し、生物学や医学分野に貢献するものと思われ、概ね期待どおりの成果を上げたと評価できる。</p>				
10	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	13854008	未来型天然資源を利用する微生物の分子細胞生物学的総合理解と応用機能開発	阪井 康能 (京都大学・大学院農学研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>未来型資源といわれるメタン及びメタノールなどC1化合物を資化する微生物(メチロトローフ及びアルカン資化性菌)の機能の高度利用を目指し、基礎と応用にわたる広範な研究を展開した。基礎的研究では、生化学的、細胞生物学的および分子生物学的側面のそれぞれで顕著な成果を収め、これら特異な微生物の分子細胞生物学的基盤の理解に大きく寄与した。研究の成果をレベルの高い学術誌にいくつか発表している点は高く評価できる。特に重要な成果であるペルオキシソーム分解の研究では、今後のさらなる発展に期待したい。基礎研究の成果に対し、応用機能開発研究の成果はこれまでのところ必ずしも十分とはいえないが、本研究で得られた基礎的研究の成果をもとにした、バイオテクノロジーへの今後の応用展開に期待したい。</p>				